

令和 4 年 8 月 19 日

ウクライナへ研究機材を供与します

福島大学環境放射能研究所（IER）は、ロシア軍による侵略戦争の被害を受けたウクライナの関係機関に対して研究機材を供与します。

背景

IER では 2017 年度に SATREPS※による「チョルノービリ災害後の環境管理支援技術の確立」を筑波大学・福島県立医科大学とともに開始しました。ウクライナの 3 つの政府機関および 12 の研究機関と共同で、放射能汚染地域の有効活用というウクライナ政府方針を支援するため、原子力災害後の環境影響評価等の研究活動を実施して参りました。また、ウクライナにおける科学技術水準向上を目的に、これらの機関に対してのべ約 150 の研究機材を供与しました。しかし、本年 2 月 24 日から始まったロシアによるウクライナ侵略戦争により、ウクライナ国内での研究活動は中断、共同研究機関は大きな被害を受けています。特に、一時ロシア軍に占拠されたチョルノービリでは被害が大きく、研究の大前提となる放射線モニタリングに必要な基礎的機材やコンピューターが破壊や盗難の被害を受けました。そこで IER では、一刻も早い研究体制の復旧を目指し、チョルノービリに研究拠点を置く共同研究機関へ機材を追加供与することとしました。

追加供与機材の概要

ウクライナ国営特殊企業エコセンター、原子力発電所安全規制機構、ウクライナ水文気象学研究所、チョルノービリ環境放射能生物圏保護区の 4 機関に約 20 種類、のべ約 100 台の機材、総額約 2000 万円分を供与する予定です。

追加機材の多くは空間および個人線量計、さらに線量計の稼働やデータ管理に必要なコンピューターです。多くはウクライナ国内または第三国で調達されます。

ウクライナ国内での調達に困難を伴うため機材により供与時期が異なりますが、年末に向け随時、供与を進める予定です。今回 8 月 19 日に行う引き渡し式では、エコセンターに 2 種類の空間線量計 計 9 台が供与されます。

本プロジェクトによる追加供与機材がチヨルノービリでの研究体制復旧の一助となり、1日も早く平和で安全な環境で共同研究を再開できることを願ってやみません。

※SATREPS とは

地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development、通称サトレップス）は JICA（独立行政法人 国際協力機構）と JST（国立研究開発法人 科学技術振興機構）が共同で実施する、日本と開発途上国の研究者が共同で研究を行うプログラムです。地球規模課題の解決と両国での科学技術水準の向上を目指しています。

プログラムの活動のうち、相手国への機材供与は JICA の支援によるもので、ODA（政府開発援助）事業として実施されます。

（取材申込・お問い合わせ先）
福島大学環境放射能研究所 所長
難波 謙二
電 話：024-504-2720
メール：nanba@sss.fukushima-u.ac.jp